

令和7年度 施策評価表(令和6年度決算評価)

施策名： 健康支援
施策番号： 08 - 01

1 基本情報

施策名	08	健康支援	展開方向	01	生活習慣病予防対策(ライフステージに応じた健康づくりへの支援)
主担当局		保健局			

2 目標指標

指 標 名		基準値 (R3)		目標値 (R9)	実績値				
					R2	R3	R4	R5	R6
A	健康寿命の延伸 (健康寿命と平均寿命の差)	男△1.55 女△3.39	歳	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加	男△1.63 女△3.59	男△1.55 女△3.39	男△1.50 女△3.29	男△1.47 女△3.22	-
B	尼っこ健診受診率	小5 37.6 中2 26.8	%	小5 50.0 中2 30.0	小5 37.3 中2 24.1	小5 37.6 中2 26.8	小5 35.7 中2 26.2	小5 31.3 中2 28.8	小5 30.9 中2 28.4
C	特定健診受診率	31.4	%	60.0	26.9	31.4	31.3	30.8	31.3 (速報値)
D	保健指導実施率	31.6	%	60.0	25.4	31.6	28.9	30.4	28.2 (速報値)
E	がん検診の受診率 (肺がん検診受診率)	5.4	%	増加	3.3	5.4	6.8	6.4	6.7

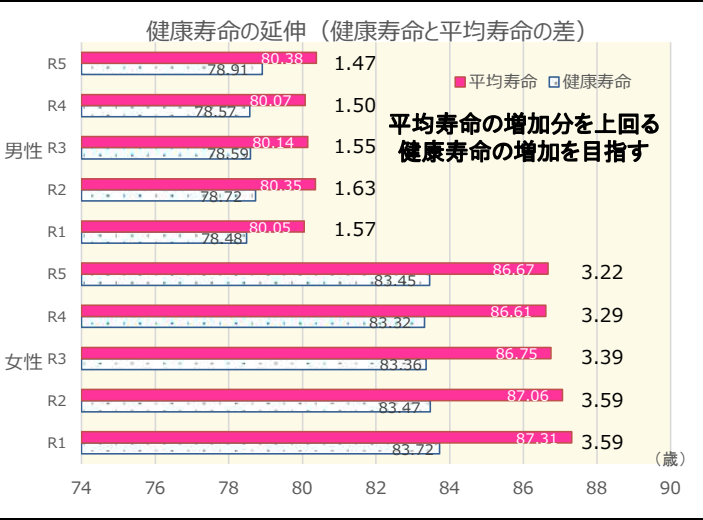
5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和6年度実施内容を記載)	
成 果	課 題
【全庁横断的な生活習慣病に係る取組の推進】(目標指標A) (目的)生活習慣病予防・重症化予防、介護予防の取組の推進に関連する施策の連携を図り、全てのライフステージを対象にした総合戦略を関係部局横断的に進めることにより、健康寿命の延伸、結果としての医療費・介護給付費の適正化を目指す。 ①≪第4次地域いきいき健康プランあまがさきの進捗管理≫ 第4次地域いきいき健康プランあまがさき(計画)の進捗管理を行う庁内推進会議において、計画の取組状況や成果、課題、今後の取組方針を評価シートにまとめ、尼崎市地域保健問題審議会(審議会)へ報告した。 ②≪計画のデータ分析≫ 市民の健康実態を把握し、より効果的な事業を実施していくため、本市の保有する特定健診・後期高齢者健診受診者の健診結果などのデータを用いて、市民の健康状況と喫煙の関係性をテーマに分析を行い、審議会に報告した。また、尼崎健康医療財団(財団)が保有する事業所健診結果などのデータの提供を受けた。	①令和6年9月に実施したあまがさきWebアンケートでは計画の認知度は約10%であり、計画で設定している各分野の目標指標の達成のためには、市民に計画を理解してもらうとともに、市民が健康に対する意識を高め、主体的に健康行動を実践してもらえるよう啓発が必要である。
【望ましい生活習慣を早期から獲得するための取組の推進】(目標指標B) (目的)望ましい生活習慣を選択できる力を早期から獲得することにより、将来の生活習慣病の発症、重症化予防を目指す。 ③≪若年期からの望ましい生活習慣の獲得≫ 「尼っこ健診事業」では受診率向上に向けて出前健診などの取組を行ったが、受診率は微減した。これまでの同事業の健診データを検証した結果、生活習慣病の要因となる肥満の改善に向けた積極的な介入が必要であることがわかった。	③肥満児へのハイレスクアプローチを効果的に実施するためには、教育委員会が実施する肥満児を対象とした「小児生活習慣病対策事業」との連携した取組が必要である。
【各種健・検診事業等を通じた重症化予防の推進】(目標指標C・D・E) (目的)各種健・検診事業等を通じた、生活習慣改善や疾病の早期発見・治療による生活習慣病の発症、重症化予防を目指す。 ④≪特定健診の受診率向上≫ 受診勧奨として、新たにナッジ理論(*)を活用したはがきを送付するとともに、SMSや電子チラシサービスを導入した。さらに、令和7年1～3月に追加健診として集団健診を10回行った結果、326人の受診があり、昨年度の受診率を上回った。また地理情報システム(GIS)を活用し未受診者が多い地域を分析し、新たな会場の検討を行った。健診結果に基づいた集団保健指導を行うほか、特定保健指導や重症者に対する個別保健指導を行った。 ⑤≪がん検診の受診率向上≫ 市民の利便性に配慮し、特定健診とのセット受診を促すとともに、各がん検診における無料クーポン対象者のうち、未受診者に再勧奨通知を行い、受診者の増につながった(5つのがん検診延べ人数、R5:34,078人、R6:34,857人)。 (*)人の行動を、強制せずに望ましい方向へ自然に促す仕組みや工夫	④集団健診を主軸とした受診率向上策を様々講じてきたものの受診率が30%程度で推移しており、他市の取組を参考に更なる受診率向上策を検討する必要がある。 ⑤受診率は兵庫県下において依然として低い水準にあり、特に子宮頸がん検診については、無料クーポン券の送付などにより受診勧奨を行っているものの、その向上にはつながっておらず、他市の取組を参考に更なる対策が必要である。
【各種健・検診事業等を通じた介護予防の推進】 (目的)生活習慣病の重症化予防や介護予防の取組により、介護を要する状態になることや、重症化の予防を目指す。 ⑥≪健診の場を活用した認知症・フレイル対策≫ 特定健診と併せて「認知症予防対策事業」やフレイル対策のための「サルコペニア肥満調査事業」を未来いまカラダ戦略事業の中で実施してきたが、事業の利用者数が伸び悩んでいるほか、特定健診の受診率向上につながっているとも言いがたいため、事業の見直しを行った。 ⑦≪保健事業と介護予防の一体的実施事業≫ いきいき百歳体操など通いの場でオーラルフレイル(口腔機能低下)予防の講座を行っており、新たに咀嚼力チェックガムも活用して健康指導を行った。また健診や医療、介護の未利用者である健康状態不明者517人について健康状況を把握し、健康管理を支援するとともに、健診受診者のうち糖尿病未治療者の13人や、新たに糖尿病治療中断者の2人についても保健指導を実施した。	⑥介護予防を推進するためには、認知症対策やフレイル予防を継続的に行うことが重要であり、より多くの市民に事業の趣旨を理解してもらい、生活習慣の改善や医療機関の受診につながるような取組を構築する必要がある。 ⑦重症化予防のため、健康状態不明者への支援を重点的に行ったが、糖尿病未治療者や治療中断者に対しては、十分な保健指導件数には至らなかったため、更なる対応が必要である。

3 主要事業一覧

令和7年度 主要事業名	
1	子宮頸がん検診受診勧奨はがきの拡充送付(がん検診事業)
2	尼っこ健康づくり事業の実施(生活習慣病予防推進事業)
3	尼っこ健診事業の見直し(生活習慣病予防推進事業)
4	未来いまカラダ戦略事業の見直し(ヘルスアップ尼崎戦略事業)
5	ヘルスアップ健診事業の見直し(ヘルスアップ尼崎戦略事業)
令和6年度 主要事業名	
1	
2	
3	
4	
5	
令和5年度 主要事業名	
1	「高血圧ゼロのまち」推進事業(生活習慣病予防ガイドライン推進事業)
2	未来いまカラダ戦略事業の見直し(生活習慣病予防ガイドライン推進事業)
3	口腔衛生事業の見直し(口腔衛生事業)
4	
5	

4 参考グラフ



6 評価結果

評価と取組方針
・がん検診について、引き続き様々な媒体での受診勧奨時のナッジ理論を活用するなど、更なる市民の意識向上に努めるほか、特定健診とあわせてニーズを捉えた受診機会の増加に取り組む。また、今年度実施する子宮頸がん検診の個別勧奨はがきの送付対象拡大の効果検証や、受診率の高い他都市の取組事例の分析を行う中で、本市にとって効果的な取組を検討する。
・特定健診については、尼崎市医師会等と連携し、かかりつけ医等での個別健診の受診促進を効果的に進め、受診率の向上を図っていく。
・財団から提供を受ける匿名加工化された事業所健診結果等のデータの分析を引き続き実施し、財団とも連携しつつ、エビデンスに基づきターゲットを明確にした効果的な施策の立案について検討を進めていく。

令和7年度 施策評価表(令和6年度決算評価)

施策名：健康支援
施策番号：08 - 02

1 基本情報

施策名	08	健康支援	展開方向	02	地域や団体などと取り組む健康づくり(ライフステージに応じた健康づくりへの支援)
主担当局		保健局			

2 目標指標

指 標 名		方向	基準値 (R3)		目標値 (R9)	実績値				
			R2	R3	R4	R5	R6			
A	自分が健康であると感じている市民の割合	↑	74.4	%	100.0	72.5	74.4	72.3	72.8	75.5
B	食育に関心がある人の割合	↑	72.7 (R4)	%	75.0	—	—	72.7	70.2	74.6
C	自殺による死亡率 (人口10万人対)	↓	16.6	人	16.1	16.2	16.6	21.5	17.7	14.4
D										
E										

※指標Bについて、令和4年度は尼崎市健康づくりアンケート調査、令和5、6年度は市民意識調査の数値を用いている。

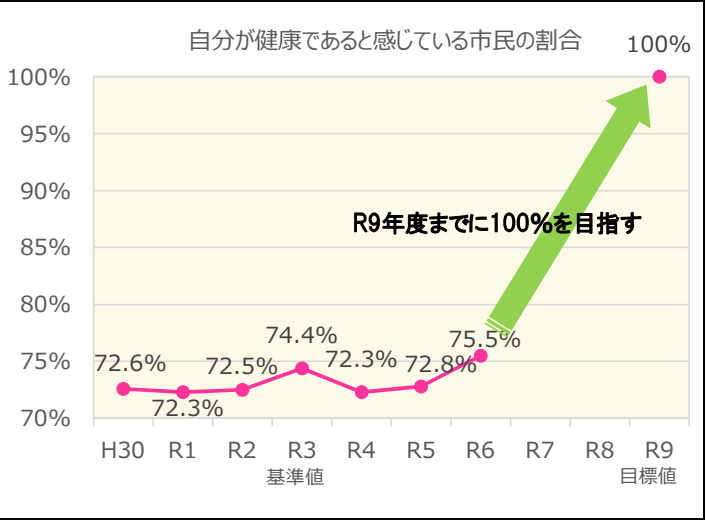
5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和6年度実施内容を記載)	
成 果	課 題
【健康行動を促すまちづくりの推進】 (目標指標A) (目的)健康寿命の延伸のため、市・市民及び事業者等が連携し健康づくりの取組を促進させる施策を推進し、誰もが健康行動を起こすことができる環境づくりを目指す。 ①《未来いまカラダポイント事業》 本事業への参加者を増やすために、あま咲きコインアプリの利用者に対し、これまでのプッシュ通知に加えメールを配信するなど、広報を強化した(あま咲きコイン付与実人数 R4: 2,679人、R5:5,130人、R6:5,553人)。	①事業利用者は高齢者層が多く、固定化も見られるため、若年者層や健康無関心者層に向けたアプローチの強化が必要である。また当事業の実施主体は尼崎市未来いまカラダ協議会(協議会)であるが認知度が低く、新規事業者の参入も見込みにくいため、運営体制の見直しが必要である。
【たばこ対策の推進】 (目標指標A) (目的)喫煙による健康への影響の理解を深め、禁煙を希望する人の支援を行うとともに、受動喫煙を防止する。 ②《受動喫煙防止の市民への啓発》 集団健診受診者等を対象とした禁煙相談事業により、3人が禁煙につながり、また子どもへの影響を啓発するため、受動喫煙防止のチラシを妊娠届出時や乳幼児健診時に配付した(R6配付人数:6,580人)。たばこ健康をテーマにあまがさきWebアンケートを実施した。 ③《受動喫煙防止に関する事業所への啓発》 兵庫県受動喫煙の防止等に関する条例(県条例)に基づいて事業所への指導を延べ69回実施し、11箇所で灰皿の移設・撤去につながった。	②喫煙開始は20代以下、禁煙開始は50歳未満が多かったというアンケート結果を踏まえ、若年層に対する喫煙や受動喫煙のリスクについて周知啓発が必要である。 ③受動喫煙防止や喫煙環境の表示等を規定している県条例を認知してもらえるよう、事業所等に対する更なる啓発が必要である。
【食育の推進】 (目標指標B) (目的)生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐむ食育を推進する。 ④《子ども食堂の活動支援》 子ども食堂の活動日に担当者が訪問し、運営団体と顔の見える関係を構築するとともに活動支援に向け補助事業を紹介した。さらに、補助要件の改善を行った。 ⑤《食育についての情報発信》 より良い食育の実践に向け既にSNS上で開設しているクックパッド「アママシ」に加え、新たに若い世代への食育に関心を高めるため、Instagramでの情報発信を行った。(総閲覧数:約145,000回、フォロー数:約1,200人)。	④申請の煩雑さが障壁となり、申請件数の大幅な増加にはつながらなかった。 ⑤一定数の定期閲覧者はいるものの、食育実践につながっているか検証が必要である。
【心と体の健康回復や療養のための支援】 (目標指標C) (目的)精神疾患・難病患者等に係る相談・支援体制の整備によるこころとからだの健康回復や療養のための支援を行う。 ⑥《心のサポーター養成講座》 心の不調に早期に気づき対処できるよう「心のサポーター養成講座」を実施した(R6:4回実施、計34人認定)。令和5年度で国の試行事業は終了したが、引き続き講座を実施できるよう、国が認定した講師と直接調整し、事業の継続を図った。 ⑦《自殺対策の推進》 若年層の自殺対策として、学校等関係部局と連携して個別支援を行うとともに、長期休暇明けに児童・生徒の自殺リスクが高くなるという実態に基づき、夏休み明け前に市民(特に若年層)を対象とした啓発動画の配信を行った。動画の作成に際して、若年層の意見を取り入れられるよう、武庫川女子大学と共同で動画を作成し自殺による死亡率の低下に努めた。 ⑧《常時在宅人工呼吸器使用者への支援》 停電時、患者の安否確認や病院受入れが速やかに行われるように関係部局と連携し要支援者システムの改修、患者情報の蓄積、共有手法の見直しを行い、関係部局向けにシステム研修会を開催した(R6:2回)。また、停電時の患者の対応について、訪問看護事業所や尼崎総合医療センターと複数回担当者会議を行った(R6:3回)。 ⑨《アスベストに関する健康支援》 アスベスト問題を風化させないため、アスベスト患者と家族の会とともに全生涯学習プラザと新たに保健所で写真展を開催した。また、石綿健康被害救済制度の充実や健康管理制度の構築等について国に対して要望を行った。	⑥心のサポーターの養成が引き続き必要であるが、参加者が少ないため、その増加に向けた取組が必要である。 ⑧停電時の患者の病院受入れにあたり、入院調整の具体的な手法や、受入れの優先順位の決定方法等についての整理が必要である。 ⑨石綿健康被害救済制度の充実や健康管理制度の構築等について、国に対して働きかけを行ってきたものの実現には至っていない。

3 主要事業一覧

令和7年度 主要事業名	
1	
2	
3	
4	
5	
令和6年度 主要事業名	
1	心のサポーター養成講座の実施(精神保健事業)
2	
3	
4	
5	
令和5年度 主要事業名	
1	たばこ対策推進事業
2	子ども食堂における食育の取組の実施(食育推進事業)
3	常時在宅人工呼吸器非常用バッテリー整備事業
4	石綿ばく露胸部CT検査助成事業
5	

4 参考グラフ



6 評価結果

評価と取組方針
・常時在宅人工呼吸器使用者の停電時における入院調整の仕組みについて、引き続き関係機関と協議を行い、スムーズな入院が可能となるよう、患者情報を共有する手法等の構築に努める。
・石綿健康被害救済制度の充実や健康管理制度の構築等について、引き続き国へ要望していくとともに、アスベスト問題を風化させることのないよう、アスベスト患者や家族の会とも連携を図り意見交換を行う中で、次世代へ継承するための取組に向けた検討を進める。

主要事業の提案につながる項目

令和7年度 施策評価表(令和6年度決算評価)

施策名：健康支援
施策番号：08 - 03

1 基本情報

施策名	08	健康支援	展開方向	03	健康で安全・安心な暮らしを確保するための体制の充実
主担当局		保健局			

2 目標指標

指 標 名		方向	基準値 (R3)		目標値 (R9)	実績値				
						R2	R3	R4	R5	R6
A	結核罹患率 (人口10万人対)	↓	14.5	人	10.0	17.3	15.1	14.5	14.3	12.1
B	猫の譲渡率	↑	72.4	%	80.0	75.7	72.4	65.0	72.6	64.9
C										
D										
E										

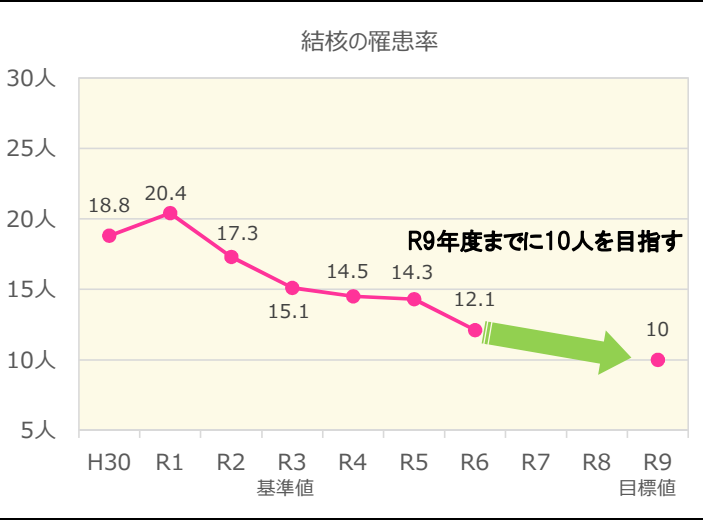
5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和6年度実施内容を記載)	
成 果	課 題
【結核・感染症対策】(目標指標A) (目的)感染症の発生予防及びまん延防止を図る。 ①<感染症予防計画の推進> 市職員の感染症に関する知識等向上のため、尼崎市感染症予防計画(予防計画)に基づき、訓練や研修を計4回開催した。また有事の際、直ちに組織体制を確立できるよう平時から具体的な準備を示した「保健所における感染症健康危機対処マニュアル」を整備した。 ②<結核罹患率の減少> 結核患者への継続的な服薬支援や積極的疫学調査等を確実に実施することで、結核のまん延防止に努め、結核罹患率は2.2ポイント減少した(R5:14.3人、R6:12.1人)。福祉事務所等の職員を対象に感染予防に向けた研修を実施するとともに、高齢者施設へはアンケート調査も行い、入居者の結核健診等の状況把握に努めた。また、市内の日本語学校での外国出生患者の発生を契機に、日本語学校を訪問し、健診の受診状況等の実態把握と啓発を行った。 ③<各種予防接種の推進> HPVワクチンについては、キャッチアップ接種が最終年度のため、啓発ポスターの掲示や、未接種者へリーフレット等を送付することで接種率向上に努めた。また、令和7年1月にキャッチアップ接種が延長となり、対象者へはがきの送付等を行った(キャッチアップ件数 R5:2,091件 R6:10,076件)。新型コロナウイルスワクチンが定期接種となったことから、ホームページ等を活用し、接種率向上に努めた(R6接種者数:15,497人 接種率:12.4%)。带状疱疹ワクチンについては、任意接種を対象とした補助事業を実施するとともに、令和7年度からの定期接種化に向けて阪神6市1町と自己負担額の在り方等を協議した。妊娠を希望する家族等への風しん抗体検査事業については、ホームページ等により啓発し利用率の向上に努めた結果、目標件数を達成した(目標:125件、R6:126件)。 【一次救急医療】 (目的)安定的かつ安全・安心な一次救急医療体制を確保する。 ④<休日夜間急病診療所の老朽化等への対応> 令和7年11月の開設に向け、新たな休日夜間急病診療所(急病診)の整備工事を進めるとともに、指定管理者制度を活用した施設運営に向けて尼崎市立休日夜間急病診療所の設置及び管理に関する条例を制定した。また、現建物の解体について、令和7年度中に着手できるよう尼崎健康医療財団(財団)と調整を行った。さらに、急病診の運営を市に移管した後の財団の在り方について協議を行った。	①予防計画に沿って、有事の際には、保健所業務を支援する外部の保健師等を確保する必要があるが、目標人数に達していない。(目標:27人、R7.3月現在:6人) ②高齢者施設では、胸部X線検査への認識が不十分である。また、外国出生患者の増加に伴い日本語学校等への啓発を更に進めていく必要があるが、外国語の通訳などコミュニケーション上の課題もある。 ③HPVワクチンのキャッチアップ接種が1年間延長となったことから、接種率向上に向けた啓発が引き続き必要である。带状疱疹ワクチンについては、令和7年度は、任意接種を対象とした補助事業と定期接種事業が混在することから、より丁寧な事業周知が必要である。
【動物愛護】(目標指標B) (目的)動物愛護に関する取組の推進に努める。 ⑤<動物愛護ボランティアの活動支援と市民啓発> ボランティア団体への意見聴取に加え、尼崎市動物愛護管理推進協議会で継続案件であった動物健康管理支援助成金制度について事業化を図った。また、TNR活動や適正飼養の意識向上について、バSRAPPING広告により、啓発を行った。 ⑥<多頭飼育問題> 関係部局との支援会議で情報共有を行うほか、飼い主に対しての指導や見回り等を14件実施し、内2件の多頭飼育事案を解決に導いた。 ⑦<市民の心情に寄り添ったペット対応> ペットの死体引取りについては、これまでのごみ処理券による対応から、市民感情に寄り添った接遇に努めることで、前年度比約1.6倍となる361件の引取を行った。	⑤野良猫の過剰繁殖を起因とした殺処分減少を継続させるとともに、地域環境の悪化等のトラブル発生を抑制する必要がある。 ⑥多頭飼育問題や適正飼養に係る啓発を継続的かつ効果的に実施する必要がある。
【弥生ヶ丘斎場・市墓園】 (目的)今後の死亡者数の増加による火葬需要への対応、墓地区画の整備により、生活衛生面での安全・安心を図る。 ⑧<斎場・墓園管理運営業務の安定・効率化> 公募で決定した新指定管理者が事業を円滑に行えるよう支援するとともに、斎場利用の利便性向上につながるよう斎場Web予約システムを導入した。また、弥生ヶ丘墓園で90区画の墓地募集を行った。	⑧高齢化の進展に伴い更なる増加が見込まれる火葬需要への対応や冬期の繁忙期に対する取組が必要である。また、墓地使用料の収納管理の効率化に取り組む必要がある。

3 主要事業一覧

令和7年度 主要事業名	
1	動物愛護に関する各種取組の実施(動物愛護推進強化事業)
2	带状疱疹ワクチン予防接種費用の一部助成の継続(带状疱疹ワクチン予防接種事業)
3	風しん予防接種費用の一部助成の恒久化(風しん予防接種推進事業)
4	
5	
令和6年度 主要事業名	
1	動物愛護推進強化事業
2	市民の心情に寄り添ったペット対応(じんかい収集事業)
3	
4	
5	
令和5年度 主要事業名	
1	
2	
3	
4	
5	

4 参考グラフ



6 評価結果

評価と取組方針
・結核の外国出生患者の増加に対しては、市内日本語学校等と連携し、結核に対する正しい理解や対策への協力を促すため、関係者への丁寧な周知・啓発を進めていく。 ・動物愛護行政については、先進的な取組を進めてきていることから、市の取組内容をホームページ等で市内外に向けわかりやすく広報していく。 ・冬期に増加する火葬需要に対応できるよう、まずは、友引開場日の増加等、可能なことから速やかに着手するとともに、今後予測される需要増に向けた抜本的な対策についても年内を目途に方向性を整理する。 ・救急医療体制の確保に関連する取組として新たに参画する、県全域での救急安心センター事業(#7119)について、市民に対し効果的に周知を図り、市民の安全安心につながるよう取組を進める。

主要事業の提案につながる項目
【弥生ヶ丘斎場・市墓園】 ⑧墓地使用料の収納管理業務の効率化を図るため、墓園管理システムの導入に向けた検討に着手する。令和8年度に人員体制を整備した上で、システム構築を完了し、令和9年度から本格稼働させる。